

ふくいオープンイノベーション推進機構が支援する技術開発2件が 経済産業省の支援事業に採択

このたび、ふくいオープンイノベーション推進機構（福井県工業技術センターと（公財）ふくい産業支援センターの共同運営）が支援する研究開発計画2件が、経済産業省の令和元年度「戦略的基盤技術高度化支援事業」に採択されました。

採択を受けた経済産業省の令和元年度「戦略的基盤技術高度化支援事業」は、「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」に基づく支援の一つとして中小企業者が産学官等の連携で行う研究開発や試作品開発を支援する公募型競争的資金制度です。

1. 採択プロジェクト

1	研究開発計画名	参画機関
	波長カットフィルムを用いた視覚補正カスタマイズレンズ 製造技術の開発と実用化システムの構築	(株)ホプニック研究所、三井化学(株)、 北里大学
	開発概要	
○波長カット技術を応用した、視覚補正レンズの開発 視覚機能は加齢により低下し、視力以外に「画像が不鮮明になる」、「色の見え方が変わる」、「まぶしさが増す」等が発生するが、視力以外の補正は困難となっている。そこで株式会社ホプニック研究所は、開発した世界初の波長コントロールによるコントラスト感度向上技術を応用し、顧客の状態に対応した視覚補正レンズを提供できるシステムを開発し、視生活の質の向上を目指す。		
2	研究開発計画名	参画機関
	高圧配管用継手の機械加工ラインにおける画像認識A I 活用による内面バリ検査自動化システムの開発	(株)日本エー・エム・シー、福井大学
	開発概要	
○画像認識A I技術を利用したバリ検査工程の自動化 建設機械の油圧駆動部品である高圧配管用継手は、寸法精度の要求が厳しく、品質低下を招く穴内面のバリを発見し除去する必要がある。現在は、熟練工による全数検査を行い、バリの除去作業を実施しているが、人手不足等により後継技能者の育成が困難となっている。 そこで、熟練工の暗黙知を形式知化し、画像認識A Iとロボット技術を活用することにより、内面バリ検査自動化システムの開発を行い、検査工程の自動化を実現する。		

2. 経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」の概要

「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」第4条の認定を受けた特定研究開発等計画、又は、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律の承認を受けた地域経済牽引事業計画を基本とした研究開発等の事業が応募の対象となる、経済産業省が公募する補助事業です。

補助事業期間	2年度または3年度
補助率	大学・公設試等の補助対象経費：定額 上記以外の補助対象経費：2／3以内
補助金額	単年度あたり4,500万円以下 3年間の合計で9,750万円以下

3. 参考情報

令和元年度「戦略的基盤技術高度化支援事業」の採択結果については、下記の経済産業省中小企業庁Webサイトで公表されております。

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190604mono.htm>